

学校法人日本体育大学 日体荏原高等学校

110周年記念式典・祝賀会

日 時：平成26年11月29日（土）午前10時より

場 所：日本体育大学 東京・世田谷キャンパス・スポーツ棟・メインアリーナ

日体荏原高等学校創立110周年記念式典・祝賀会が日本体育大学世田谷キャンパスにおいて開催されました。

式典では、ベネズエラ・ポリバル共和国特命全権大使のセイコウ・ルイス・イシカワ・コバヤシ閣下よりご祝辞を頂きました。



学校法人日本体育大学 日体荏原高等学校
創立百十周年記念式典 祝賀会

■日時 平成26年11月29日 午前10時より
■場所 日本体育大学 東京・世田谷キャンパス
スポーツ棟メインアリーナ



「富士に献花」片岡球子（1905-2008年）

日体大メインアリーナ緞帳「富士に献花」
名古屋の由緒ある「御園座」から2014年に寄贈された緞帳。文化勲章を受章された片岡球子画伯の原画による作品で、緩れ織り製。日体大校歌にある富士をモチーフにした名作。
縦7.5m、横24m、重量1トン、京都・川島織物製作



来賓祝辞

ベネズエラ・ポリバル共和国特命全権大使
セイコウ・ルイス・イシカワ・コバヤシ閣下



松浪理事長挨拶

そして10年



日体荏原高等学校 校長 大石 巧造

長い歴史と伝統を誇る本校の歩みの中でも、少子化の時代に100周年を迎え、200年に向けたスタート時から苦しい学校経営を余儀なくされました。それも伝統校の試練であると心得、教職員と共に苦楽を重ね、110周年を迎えることができました。

着任当時は、受験生の減少が激しく、定員440名であるにもかかわらず新入生が246名という状況でした。そのために、本校と桜華高校を合体して新天地で開校するか、募集停止にして閉校するかという厳しい選択を迫られていました。校長としては、設置者である法人の責任上、当然の判断であろうと理解もできましたが、再建したいという気持ちが勝り、何度となく法人に足を運びました。経営コンサルタントも導入され、再建は困難であるとの指摘もされましたが、何とか任せて頂きました。

幸い、私は半年間、法人に勤務しながら日体荏原高等学校の現場で研修する機会がありましたので、日体荏原高等学校には外からは見えない余力が十分にあることを承知していました。一言でいえば、「当たり前にするべきことをやっていない」という余裕現象です。この余裕現象は、内部にいる人たちには実感しにくい現象ですが、外部から覗いてみれば誰にでもわかることです。特に、伝統のある私学においては、独自の経営が許され、建学時からの慣例や慣習にこだわり孤立し、内部から見えにくくなる場合があります。

平成18年9月1日から校長として赴任するに当たり、法人から厳しい条件をいただきましたが、再建に向けて不安はありませんでした。そして、日本体育大学に校長就任あいさつに伺うと、いきなり「荏原をつぶしてこい」と言われ、逆に奮起することができました。さらに勇気を頂いたのは、

当時の五十嵐同窓会会長が、恐ろしい目つきで「校長、日体荏原を閉校したり、移転させることは許しませんよ」と断言されたことです。この一言により、私の使命と責任の重さを改めて自覚することができました。初めての危機突破三年計画では、教職員の期末手当を一カ月まで下げ、経費節減と節約に加え、何よりも優先して生徒募集対策に全力を投じました。同時に、危機を感じた五十嵐同窓会会長が250校の中学校を一人で訪問していただいたことも忘れることができません。

現在は、1、2年生が各学年400名以上になり、全校生徒数1,200名以上の規模になることができました。財政も安定してきましたが、校舎の全面改築と魅力のある教育内容の確立と言う大きな課題が残されています。110年に向け、五大目標を設定し取り組んできましたが、完成できた事業はグラウンドの人工芝化、生徒寮の設立だけでした。硬式野球部を甲子園に送る、110周年記念文化祭の創造、慈育厳教の徹底の三大目標は道半ばと言わざるを得ません。200年に向け、残された三大目標に全教職員が新たに決意を持ち、本気になって取り組んでいくことを切に願うばかりです。幸い、学校法人日本体育大学と改称した法人が経営のビジョンを明確に示し、各設置校が私学の中で生き残る方向を示唆していただきました。

身体にまつわるスポーツと科学を追求する学問を通して人間形成を目指す教育方針のもと、各設置校は独自の建学精神を生かし、健全な経営をする必要があります。すでに本校では10年計画が検討され、学校名の変更や教育課程の改善を図り、大きく変わろうとしています。その内容は、建学の精神を「知の名門・技の強豪」と改めて表現し、さらなる飛躍をめざし、世界に貢献できる人間育成を誓約しています。さらに、確かな学力の保証、豊かでたくましい心の育成、日本体育大学との連携強化等を約束したものです。

110周年を機に、全教職員が新たな志を持ち、本校の発展に寄与していくこととなりますが、皆様方のご理解とご協力がなくては成り立ちません。今後とも、末永く、日体荏原高等学校を愛していただき、将来を期待していただきますようお願いいたします。



大石学校長式辞



生徒代表の言葉

式典では、生徒代表2年生の喜瀬知有良さんが「生徒の言葉」を述べました。「知識と勇気を併せ持つ体育人」として、未来の日本の原動力になっていくことを誓った力強い言葉でした。



学生讃歌の斉唱

学生賛歌の紹介も行われました。学生賛歌「日体荏原ドンと行け！」は、創立110周年を記念して、本校卒業生の元橋さんが作詞・作曲を手掛けて下さりました。



司会の佐藤弘道さん

記念式典の後には、祝賀会が開催されました。司会は本校卒業生の佐藤弘道さんが務められました。

祝賀会では、110周年を祝うアトラクションが披露されました。



ダンス『風よ吹け』



チアリーディング『110周年おめでとう！』



エッサッサ『110の王荏原獅子』